

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-142	A-152	23-078	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
Impulsivity, mental health state and emotion regulation modulate alcohol and marijuana use in a sample of Argentinean citizens 衝動性、精神健康状態、および感情制御は、アルコールおよびマリファナ使用に影響を与える—アルゼンチン市民を対象とした検討			
執筆者			
Salguero A, Pilatti A, Michelini Y, Rivarola Montejano G, Pautassi RM.			
掲載誌			
Alcohol. 2024 Aug;118:37-44. doi: 10.1016/j.alcohol.2023.11.005.			
キーワード			PMID
アルコール、心理的苦痛、感情制御、衝動性、マリファナ			38006977
要 旨			
<p><b>背景:</b> 衝動性と物質使用に関連したアウトカムの間には複雑な関係があり、衝動性特性の刺激欲求、ネガティブおよびポジティブ切迫性、熟慮や忍耐力の欠如の様々な側面が、薬物使用とそれぞれ異なる関連を示すことがわかっている。本研究では、アルコールおよびマリファナ使用の頻度および量と、衝動性特性、心理的苦痛、および感情制御方略との関連を検討した。</p> <p><b>方法:</b> アルゼンチン市民の男性 (n = 1,507,356) を対象に、典型的な週の各日におけるアルコールまたはマリファナ使用の頻度および量、ならびに不安、ストレス、抑うつ症状 (DASS-21)、衝動性に関する特性 (UPPS-P)、および感情調節尺度 (ERQ) との関連を、階層的重回帰分析を用いて解析した。</p> <p><b>結果:</b> 2 ヶ月間のアルコール飲酒率またはマリファナ使用率はそれぞれ 80.1% および 27.2% であった。計画性はアルコール摂取頻度と摂取量の両方において有意に (p &lt; 0.05) 負の関連を示し、一方で、ネガティブおよびポジティブ切迫性は、それぞれアルコール摂取量やマリファナ摂取量と有意に (p &lt; 0.05) 正の関連を示した。抑うつ症状が強いほど、アルコールの摂取量との関連が示唆されたが、感情抑制が低い場合や認知的再評価が低い場合、アルコールまたはマリファナの使用頻度が高いことと有意な関連があった (p &lt; 0.05)。また、個人の刺激欲求は、マリファナの使用頻度と有意な正の関連があった (p &lt; 0.05)。</p> <p><b>結論:</b> 衝動性様特性が高い、抑うつレベルが高い、または感情制御能力の使用が低い人は、アルコールまたはマリファナ使用のリスクが高かった。本研究対象集団において、アルコール使用 (ただしマリファナは含まない) は、負の強化経路に適合していることが考えられた。本研究より、薬物乱用のリスク因子を有する個人が感情調整を強化することを目的とした介入から有益な結果が得られることが示唆された。</p>			